

2025年度 文部科学省委託研究

「子育ての支援や家庭等との連携強化に関する調査研究」

幼児教育施設の機能を生かした
いわゆる「預かり保育」の在り方
－幼児教育の充実を目指す預かり保育の
プログラム開発・実践－

WEBアンケート結果・報告書

2026年3月



公益社団法人
全国幼児教育研究協会

1

研究の目的

1. 研究課題名

文部科学省委託調査研究テーマ

「子育ての支援や家庭等との連携強化に関する調査研究」

調査研究課題

「幼児教育施設の機能を生かしたいわゆる「預かり保育」の在り方
－幼児教育の充実を目指す預かり保育のプログラム開発・実践－」

2. 研究の目的

幼稚園における預かり保育の実態について調査研究を行い、全国の幼稚園がどのような内容や方法で預かり保育を実施しているのか現状と課題を把握するとともに、「幼児教育施設の機能を生かしたいわゆる「預かり保育」の在り方－幼児教育の充実を目指す預かり保育のプログラム開発・実践－」について提言し、子育ての支援や家庭等との連携強化に資することを目的とする。

○本アンケート調査の目的

本アンケート調査は、教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動（いわゆる「預かり保育」）を実施している園及び預かり保育担当者の方々を対象に、WEBアンケート調査を実施し、預かり保育の実態や課題を把握し、本研究の基礎資料とすることを目的として実施する。

園対象アンケート

I. 調査概要

I. 調査概要

◇ 調査項目

問1. 令和7年度の預かり保育の実施状況

1. 預かり保育担当者について
2. 特別な配慮が必要な子供が利用する場合の加配
3. 学級担任と預かり保育担当者間の情報共有・情報交換の方法
4. 学級担任と保護者との情報交換

問2 預かり保育の計画

5. 預かり保育の計画
6. 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした活動の有無
7. 子供の心身の負担に対しての配慮
8. 午睡実施時期
9. 安全管理で特に配慮していること
10. 預かり保育の専任担当者研修の機会の有無、
11. 預かり保育の専任担当者研修を対象とした研修内容
12. 長期休業期間の生活の流れについて特に配慮していること
13. 教育課程とのつながりを意識した具体的な内容や配慮点について
14. 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした具体的活用について
15. 預かり保育に関して工夫した実践や特色ある取り組みについて
14. 預かり保育実施による教育的観点からの成果について

◇ 調査対象

全幼研の組織を生かして、全国の国公私立幼稚園から300園を選出、167園回収(回収率55.7%)。

◇ 調査方法

インターネット調査。アンケート用紙のQRコードを読み取るか、記載のURLからWEBアンケートにアクセス後、依頼書に記載してある、パスワードを入力後、WEBアンケートに回答。

◇ 調査期間

2025年7月27日～2025年8月18日

◇ 調査企画管理・実施機関

株式会社ニーズ

◇ その他

1. 本調査においては、複数回答が可能な設問について選択肢ごとの回答率(%)を算出する場合、回答数(有効回答数)を全体数(母数)としているため、合計値が100%を超えることがある。
2. 回答数(%)は、少数第2位を四捨五入しているため、選択肢から1つのみを回答する場合でも、回答率の表示数値の合計が100%にならない場合がある。
3. クロス集計の分析軸によっては、サンプル数が少ない場合、回答傾向として十分な精度を保たない場合もあるため注意が必要である。
4. クロス集計の分析での合計値は、少数第2位を四捨五入しているため、選択肢を個別に足した値と異なる場合がある。
5. MA(複数回答)項目の「問1-1. 預かり保育担当」を正規・非正規へのSA(単一回答)「問1-1. 預かり保育担当(新CD(新コード))」に分類し、クロス軸とした。
 1. 正規系→「a 預かり保育専任担当者(正規)」または「c 学級担任が兼務」が回答にある場合
 2. 非正規→それ以外を2. 非正規とした。
6. 年齢別人数(数量型)の回答を、以下のように新たに8分類にCD(コード)化し、集計に利用した。
 - a 0人
 - b 1-9人
 - c 10-19人
 - d 20-29人
 - e 30-39人
 - f 40-49人
 - g 50-99人
 - h 100人以上
7. 問2-6、問2-7-2、問2-13、問2-14の設問については、「Ⅲ. 自由記述についての分析」にまとめて掲載する。
8. 本報告書においては、「教育課程に係る教育時間」を「教育時間」、「教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動」を「預かり保育」と表記する。

Ⅱ．調査結果

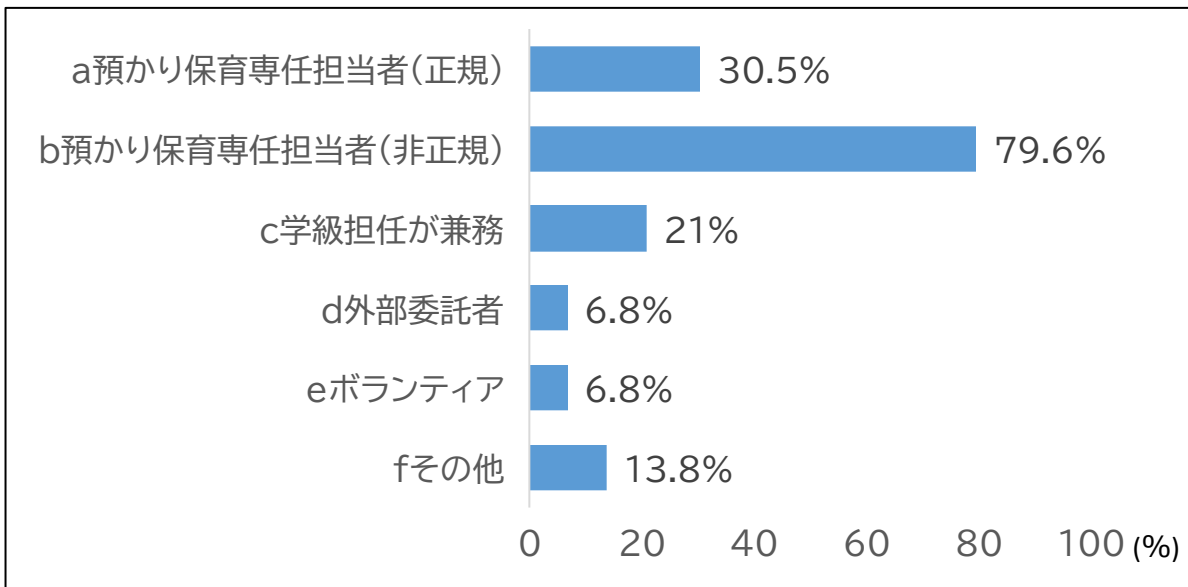
1．量的アンケートについて

(1) 預かり保育担当者について

問 1 - 1 . 預かり保育は誰が担当していますか。（複数回答可）

回答結果（N＝167）※複数回答

全体	度数	%
a預かり保育専任担当者(正規)	51	30.5
b預かり保育専任担当者(非正規)	133	79.6
c学級担任が兼務	35	21.0
d外部委託者	11	6.8
eボランティア	11	6.8
fその他	23	13.8
	264	



「預かり保育専任担当者(非正規)」が79.6%、「預かり保育専任担当者(正規)」が30.5%、「学級担任が兼務」が21.0%、「その他」が13.8%、「外部委託者」が6.8%、「ボランティア」が6.8%の順に多かった。

<考察>

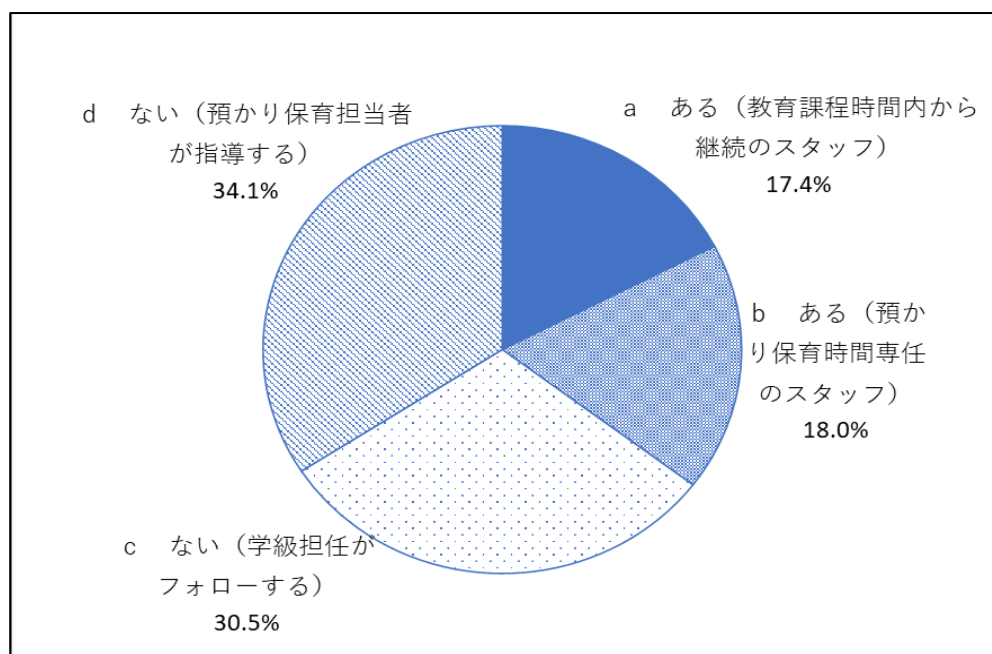
預かり保育担当者としては、「預かり保育専任担当者(非正規)」の割合が最も高く、現場の主な担い手となっていることが分かる。預かり保育の実施体制は、園によって様々であることがうかがえる。

(2) 特別な配慮が必要な子供が利用する場合の加配

問1－2. 特別な配慮が必要なお子さんが利用する場合の加配はありますか。

回答結果 (N=167)

全体	度数	%
a ある(教育課程時間内から継続のスタッフ)	29	17.4
b ある(預かり保育時間専任のスタッフ)	30	18.0
c ない(学級担任がフォローする)	51	30.5
d ない(預かり保育担当者が指導する)	57	34.1
計	167	100



「ない(預かり保育担当者が指導する)」が34.1%、「ない(学級担任等がフォローする)」が30.5%、「ある(預かり保育時間内専任のスタッフ)」が18.0%、「ある(教育課程時間内から継続のスタッフ)」が17.4%の順に多かった。

<考察>

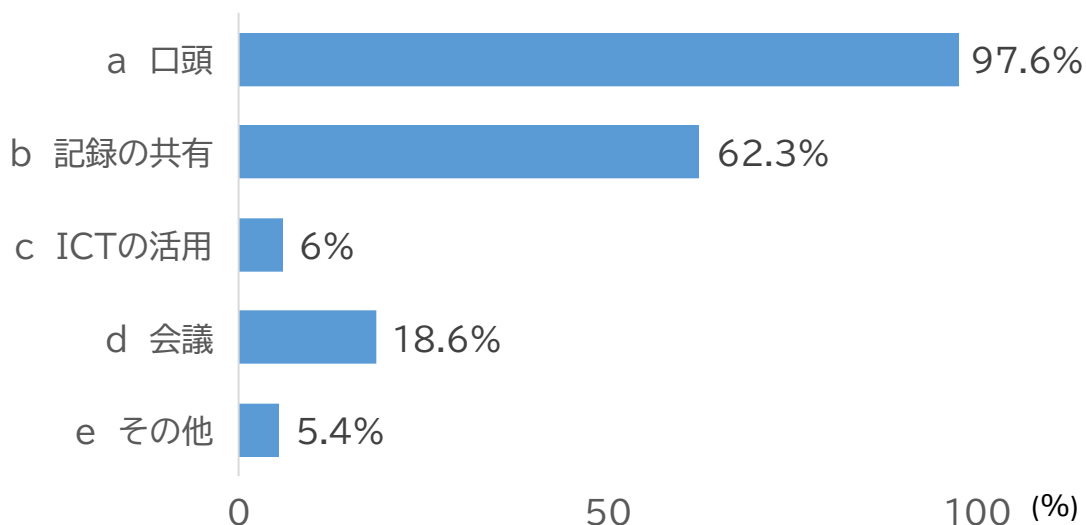
預かり保育における特別な配慮が必要な子供への支援員の加配は約35.4%にとどまり、多くの園では現状の園の職員の中で対応している実態がうかがえる。

(3) 学級担任と預かり保育担当者間の情報共有・情報交換の方法

問1－3. 学級担任と預かり保育担当者の情報共有・情報交換はどのように行っていますか。(複数回答可)

回答結果 (N=167)※複数回答

	度数	%
a 口頭	163	97.6
b 記録の共有	104	62.3
c ICTの活用	10	6.0
d 会議	31	18.6
e その他	9	5.4
	317	



「口頭」が97.6%、「記録の共有」が62.3%、「会議」が18.6%、「ICTの活用」が6%、「その他」が5.4%の順に多かった。

<考察>

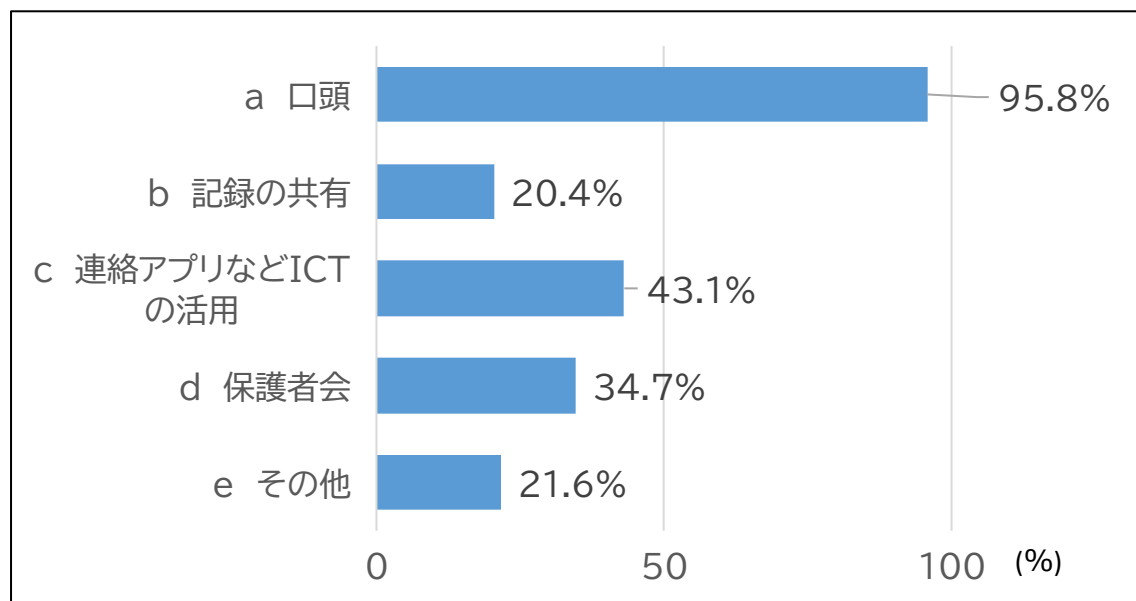
学級担任と預かり保育担当職員との情報共有は、9割以上が口頭で行われ、記録の共有が一般的であることがうかがえる。

(4) 学級担任と保護者との情報交換

問1－4. 学級担任と保護者との情報交換をどのように行っていますか。
(複数回答可)

回答結果 (N=167)※複数回答

	度数	%
a 口頭	160	95.8
b 記録の共有	34	20.4
c 連絡アプリなどICTの活用	72	43.1
d 保護者会	58	34.7
e その他	36	21.6
	360	



「口頭」が95.8%、「連絡アプリなどICTの活用」が43.1%、「保護者会」が34.7%、「その他」が21.6%、「記録の共有」が20.4%、の順に多かった。

<考察>

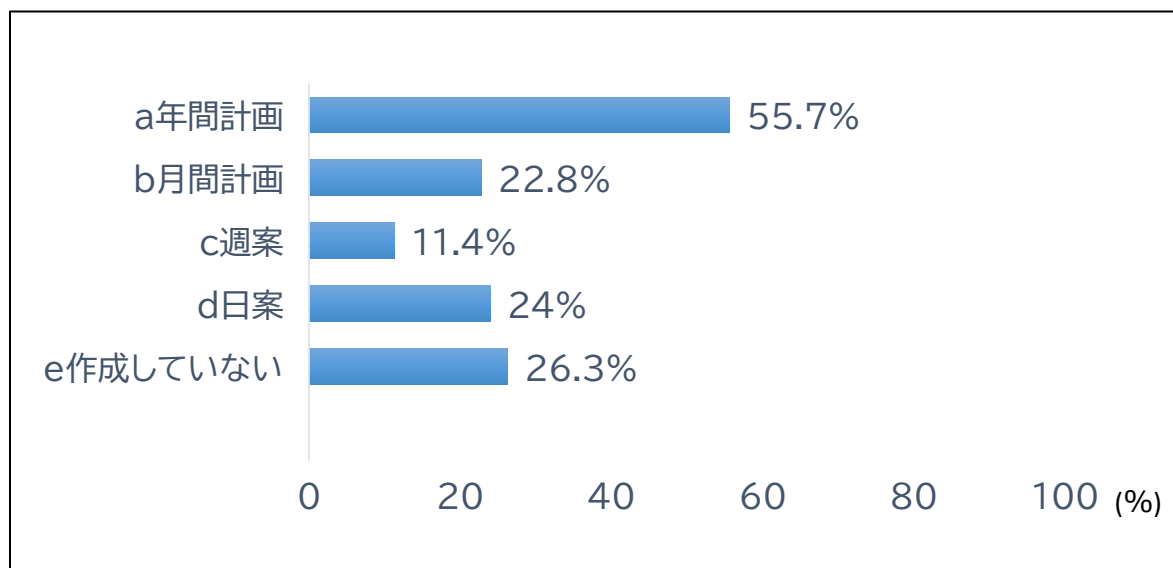
学級担任と保護者の情報交換は、9割以上が口頭で行われ、保護者との情報共有において口頭で情報共有を行うことは、一般的な方法であることがうかがえる。また、連絡アプリなどICTの活用も一定程度見られ、保護者会や記録の共有などの方法によっても情報交換が行われている。

(5) 預かり保育の計画

問2-5. 預かり保育の計画を作成していますか。(複数回答可)

回答結果 (N=167)※複数回答

全体	度数	%
a年間計画	93	55.7
b月間計画	38	22.8
c週案	19	11.4
d日案	40	24.0
e作成していない	44	26.3
計	234	



「年間計画」が55.7%、「作成していない」が26.3%、「日案」が24.0%、「月間計画」が22.8%、「週案」が11.4%の順に多かった。

<考察>

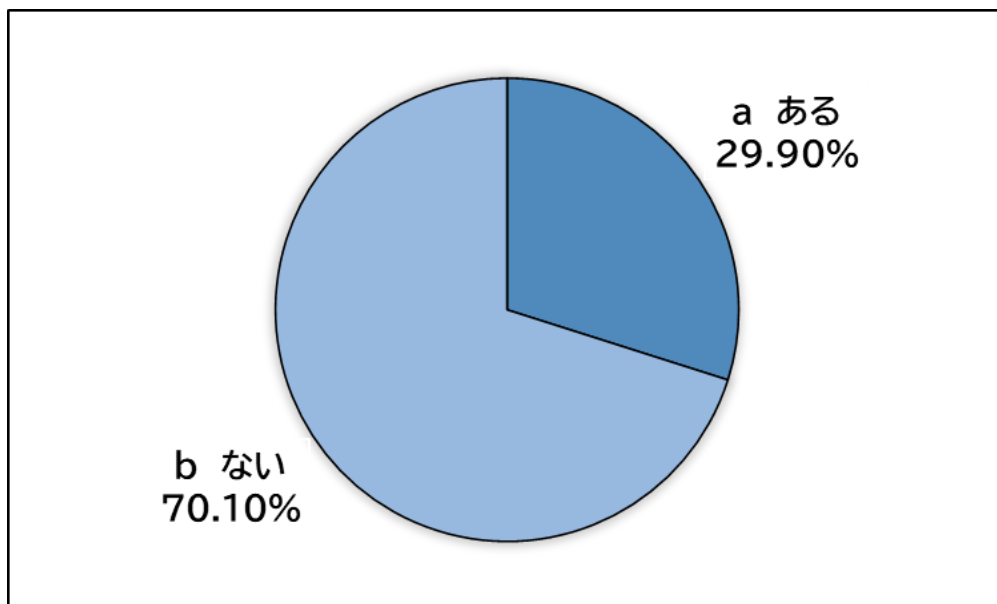
預かり保育の計画については、「年間計画」を作成している園が半数を超える一方、「計画を作成していない」とする回答も26.3%ある。短期的な計画については、日案が多く、預かり保育は日によって参加する子供が異なることもあるため、参加する子供の人数等が分かってから計画を立てることのできる日案がより選択されやすかったのではないかと考えられる。

(6) 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした活動の有無

問2-7. 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした内容がありますか。

回答結果 (N=167)

全体	度数	%
a. ある	50	29.9%
b. ない	117	70.1%
計	167	100.0%



「ある」が29.9%、「ない」が70.1%であり、約30%が地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした内容を実施していた。

<考察>

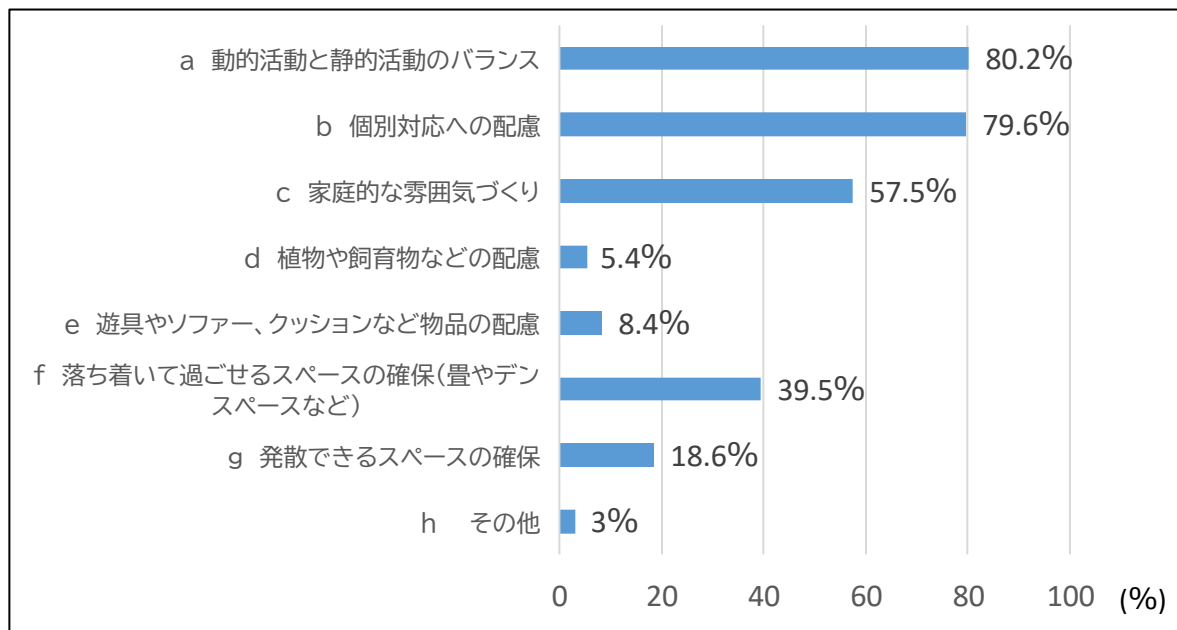
全体の約30%が預かり保育において、地域行事への参加や地域資源を生かした取組を実施している一方、70%の園では実施していないとの回答であった。(※地域を生かす工夫の具体的な実践内容については、P21参照)

(7) 子供の心身の負担に対しての配慮

問2－8. 子供の心身の負担に対してどのような配慮をしていますか。

回答結果 (N=167)※複数回答

全体	度数	%
a 動的活動と静的活動のバランス	134	80.2%
b 個別対応への配慮	133	79.6%
c 家庭的な雰囲気づくり	96	57.5%
d 植物や飼育物などの配慮	9	5.4%
e 遊具やソファ・クッションなど物品の配慮	14	8.4%
f 落ち着いて過ごせるスペースの確保 (畳やデンスペースなど)	66	39.5%
g 発散できるスペースの確保	31	18.6%
h その他	5	3.0%
計	488	



「動的活動と静的活動のバランス」が80.2%、「個別対応への配慮」が79.5%、「家庭的な雰囲気づくり」が57.5%、「落ち着いて過ごせるスペースの確保 (畳やデンスペースなど)」が39.5% の順に多かった。(※複数回答のため分母は回答者数167)

<考察>

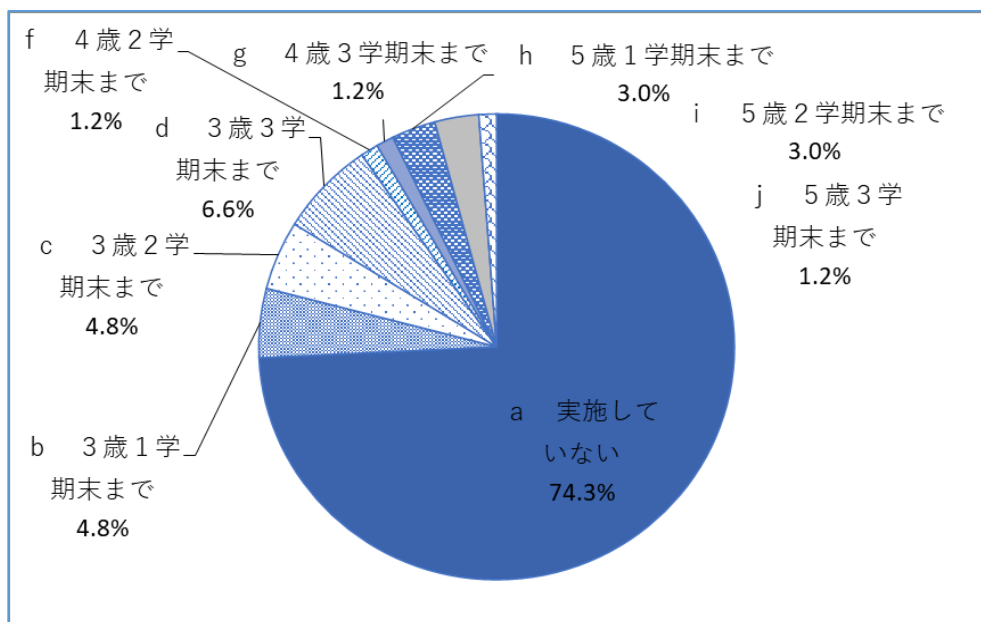
子供の心身の負担への配慮としては、「動的活動と静的活動のバランス」「個別対応への配慮」が特に重視されており、活動量の調整や一人一人の子供に応じた援助が行われていることがうかがえる。また、「家庭的な雰囲気づくり」や「落ち着いて過ごせるスペースの確保」など、安心して過ごせる環境への配慮もみられる。一方で、「発散できるスペースの確保」や「遊具やソファ、クッションなどの物品の配慮」「植物・飼育物などの配慮」などは相対的に選択の割合が低い。

(8) 午睡実施時期

問2-9. 午睡はいつまで行っていますか。

回答結果 (N=167)

全体	度数	%
a 実施していない	124	74.3
b 3歳1学期末まで	8	4.8
c 3歳2学期末まで	8	4.8
d 3歳3学期末まで	11	6.6
e 4歳1学期末まで	0	0.0
f 4歳2学期末まで	2	1.2
g 4歳3学期末まで	2	1.2
h 5歳1学期末まで	5	3.0
i 5歳2学期末まで	5	3.0
j 5歳3学期末まで	2	1.2



「実施していない」が最も高く74.3%であった。実施している項目では、「3歳3学期末まで」が6.6%、「3歳1学期末まで」及び「3歳2学期末まで」がそれぞれ4.8%、「5歳1学期末まで」及び「5歳2学期末まで」が3.0%の順に多かった。実施している園だけで見ると、3歳(1～3学期末)までの合計が62.8%、4歳(1～3学期末)までの合計が9.3%、5歳(1～3学期末)までの合計が27.9%であった。

<考察>

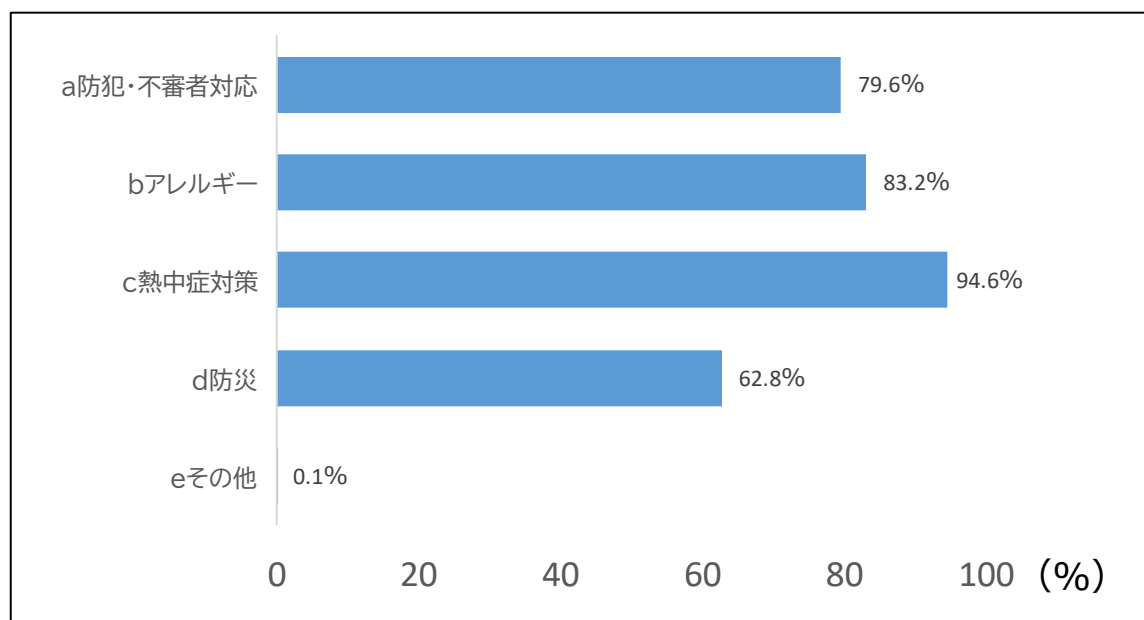
午睡を「実施していない」とする園が74.3%占めていた。一方、実施している園では、3歳児までとしている園が多く、4歳児以上まで実施している園は少数であった。午睡を実施していない園が多いが、実施している園では、主に低年齢児を対象としている実態があると考えられる。

(9) 安全管理で特に配慮をしていること

問2-10. 安全管理で特に配慮をしていることはありますか。

回答結果 (N=167)※複数回答

	度数	%
a防犯・不審者対応	133	79.6
bアレルギー	139	83.2
c熱中症対策	158	94.6
d防災	105	62.8
eその他	18	0.1
	553	



「熱中症対策」が94.5%、「アレルギー」が83.2%、「防犯・不審者対応」が79.5%、「防災」が62.8%、「その他」が0.1%の順に多かった。(※複数回答のため分母は回答園数167)

<考察>

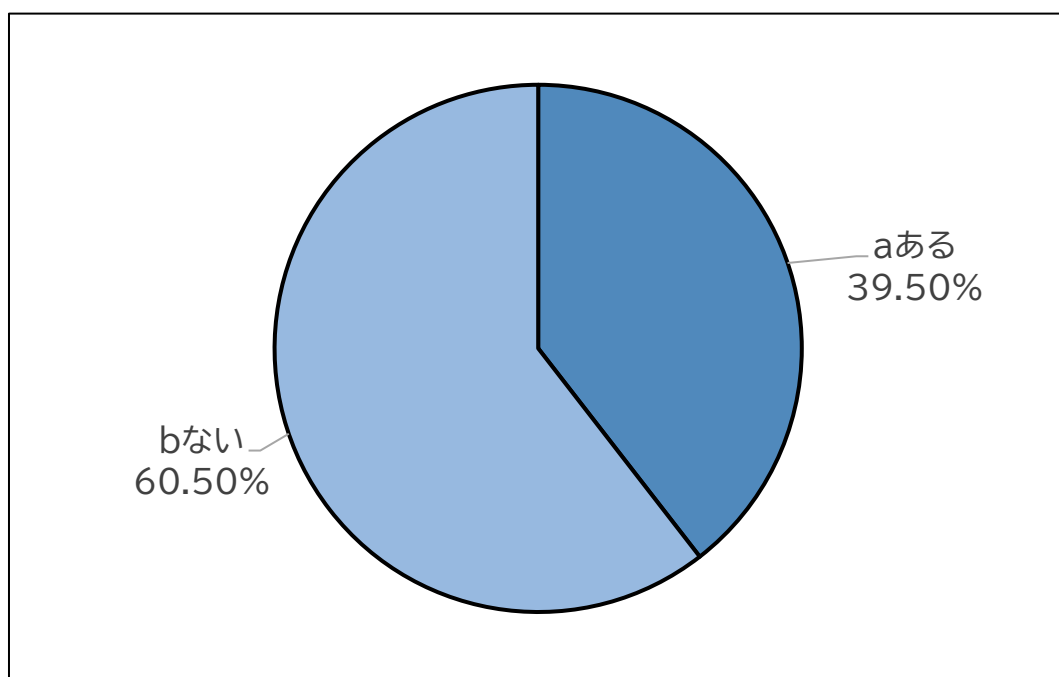
熱中症対策が最も高く、気候変動の影響を受ける中で、安全面に関する園の喫緊の課題であると考えられる。次いでアレルギー対応や防犯・不審者対応も重視されている。

(10) 預かり保育の専任担当者研修の機会の有無

問2-11. 預かり保育の専任担当者を対象にした研修の機会がありますか。

回答結果 (N=167)

全体	度数	%
a ある	66	39.5
b ない	101	60.5
計	167	100



「ある」が39.5%、「ない」が60.5%であった。

<考察>

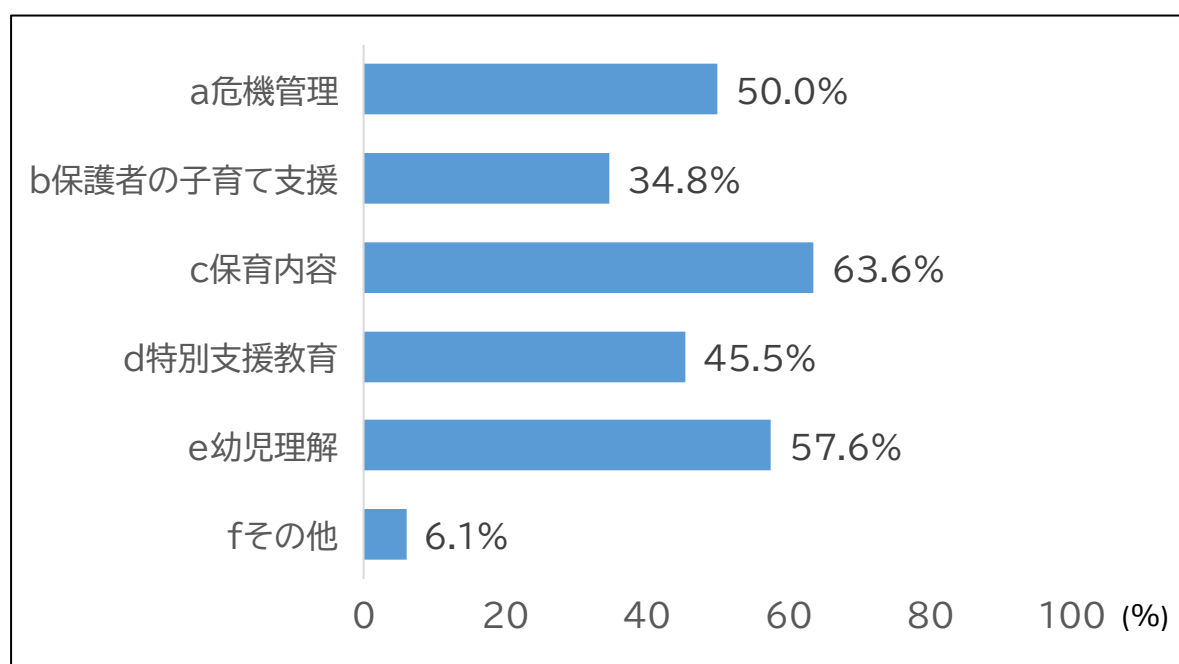
預かり保育専任担当者を対象とした研修の機会が設けられている園は39.5%にとどまった。

(11) 預かり保育の専任担当者を対象とした研修内容

問2-11-2. 預かり保育の専任担当者を対象にした研修内容はどのような内容ですか。(複数回答可)

回答結果 (N=66 問2-11-1で「ある」と答えた66園)※複数回答

全体	度数	%
a危機管理	33	50.0
b保護者の子育て支援	23	34.8
c保育内容	42	63.6
d特別支援教育	30	45.5
e幼児理解	38	57.6
fその他	4	6.1
	175	



「保育内容」が63.6%、「幼児理解」が57.6%、「危機管理」が50.0%、「特別支援教育」が45.5%、「保護者の子育て支援」が34.8%、「その他」が6.1%の順に多かった。(※複数回答のため分母は回答者数66)

<考察>

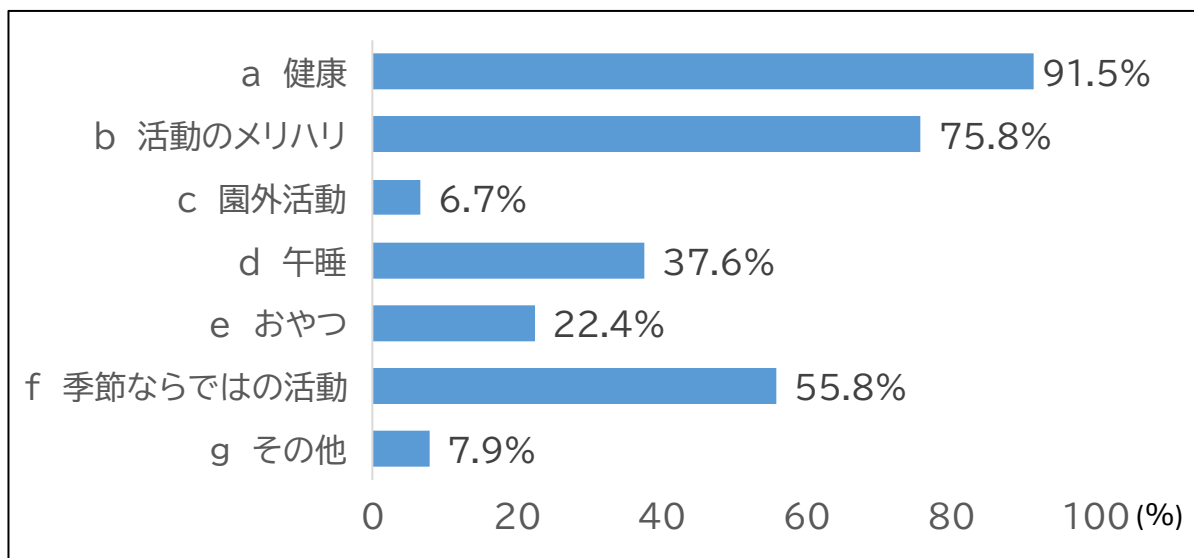
預かり保育の専任担当者を対象とした研修内容としては、「保育内容」が最も多く、次いで「幼児理解」が多かった。日常的な幼児理解と保育内容に関する研修が重視されていることが分かる。次いで「危機管理」や「特別支援教育」が挙げられ、幼児の安全確保や多様な発達特性への対応など、現場で即応力を求められる課題に焦点が当てられていると考えられる。

(12) 長期休業期間の生活の流れについて特に配慮していること

問2－12. 長期休業期間の生活の流れについて特に配慮していることはありますか。（複数回答可）

回答結果（N＝165）※複数回答

全体	度数	%
a 健康	151	91.5
b 活動のメリハリ	125	75.8
c 園外活動	11	6.7
d 午睡	62	37.6
e おやつ	37	22.4
f 季節ならではの活動	92	55.8
g その他	13	7.9
	491	



「健康」が91.5%、「活動のメリハリ」が75.8%、「季節ならではの活動」が55.8%、「午睡」が37.6%、「おやつ」が22.4%、「その他」が7.9%、「園外活動」が6.7%の順に多かった。（※複数回答のため分母は回答者数165。未回答2件あり）

<考察>

長期休業期間中は、健康管理を最優先しつつ、活動と休息のメリハリを意識した一日の構成が実施されていることがうかがえる。季節感を取り入れた体験活動も半数以上が選択している。

Ⅱ．調査結果

2．自由記述について

(13) 教育課程とのつながりを意識した具体的な内容や配慮点について

問2-6. 教育課程とのつながりを意識した具体的な内容や配慮点などがあればお書きください。

自由記述について分類・分析したところ、教育課程とのつながりを意識した内容や配慮点について、7つの視点が得られた。それぞれの視点について、記述内容をまとめて記載する。

【1. 教育課程との連続性を意識した計画の立案や保育者間の連携を行っている】

「教育課程の見直しに合わせて、預かり保育の年間計画も併せて再構成している」

「教育課程の内容を踏まえ、預かり保育の遊びや活動を設定している」

「担任と預かり保育担当者で情報共有を行い、保育の連続性を確保している」

【2. 異年齢の関わりと家庭的な雰囲気重視している】

「異年齢の関わりを生かし、年長児が年少児を支える姿を大切にしている」

「情緒的に安定して過ごせるよう、家庭的な雰囲気に配慮している」

「家庭でくつろぐような安心感をもてる環境を工夫している」

【3. 季節を生かした活動の工夫や一日の生活リズムへの配慮を行っている】

「季節の自然に触れられるよう、夏には虫探しなどの活動を取り入れている」

「運動の後は静的な活動にするなど、活動量のバランスを考え構成している」

「休息が必要な子供には、落ち着いて過ごせるスペースを整えている」

【4. 子供の主体性や継続的な遊びを重視している】

「教育時間に興味をもった遊びを、預かり保育でも継続できるようにしている」

「子供が自ら選択して遊べるよう、環境を整えている」

「子供の意欲が継続するよう、遊びの流れを大切にしている」

【5. 安全な生活習慣・基本的な生活習慣が身に付くよう援助している】

「安全確保のため、避難訓練や引渡訓練を継続して行っている」

「基本的な生活習慣を大切にし、自分でできることを増やせるよう援助している」

【6. その他】

「預かり保育の記録を共有し、子供の姿を保育全体に生かしている」

「特別な支援が必要な子供について、支援員と連携して情報を引き継いでいる」

【7. 課題・制約】

「教育課程との関連を図りたいが、人員や環境の制約により十分に対応できないことがある」

「非正規職員が担当する場合、勤務体制や時間などの制約により、教育課程との連続性を確保することが難しい場合がある」

(14) 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした具体的活用について

問2-7-2 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした内容について、工夫した具体的な活動があればお書きください。

自由記述について分類・分析したところ、地域行事への参加や地域資源の活用の工夫について、7つの視点が得られた。それぞれの視点についての具体的な記述内容は以下の通りである。

【1. 地域行事などへの参加】

- 「地域の祭りや行事に参加している」
- 「地域の祭りの見学をしている(神輿や山車)」
- 「地域の文化祭に参加している」
- 「地域の体育祭・校区の運動会に参加している」

【2. 地域資源・人材との連携】

- 「地域の方・地域企業と警察署による交通安全教室に参加している」
- 「図書館ボランティアによる絵本の会を行っている」
- 「地域のボランティアとの触れ合いや交流をしている(絵本の読み聞かせ、コンサート、わらべ歌、サッカー教室、英語など)」
- 「地域の神社・お寺へ散歩に出掛ける」

【3. 地域の自然・農業資源を活用した活動】

- 「地域の方の畑を借りて作物を栽培活動を行っている」
- 「近隣の農家の畑で季節の野菜の収穫を体験している」
- 「花の苗を地域の方と一緒に植える」
- 「地域の種花事業に参加している」

【4. 教育機関・施設との交流】

- 「学童保育との交流をしている」
- 「図書館の方(子供司書など)による絵本の読み聞かせを行っている」
- 「近隣中学校・小学校との交流活動・教職員研修を行っている」
- 「附属幼稚園として短期大学と連携して行事を実施している」

【5. 多世代交流・地域住民との関わり】

- 「高齢者食事サービスに参加している」
- 「地域の方と連携し、伝統的な祭りに参画している」
- 「地域や小中高との関わりで相互にメリットが感じられる交流を工夫している」
- 「近隣の中学生・高校生のクラブによるミュージカル・カラーガード体験などを行っている」

【6. 地域施設・商業施設などでの発表・展示】

- 「ペットボトルアート作品を商業施設に展示している」
- 「イベントステージに出演している(区役所、生涯学習センター、地域福祉センター、警察署など)」

【7. 地域探検・園外活動】

- 「隣接する公園の清掃活動を行っている」
- 「異年齢で地域探検に出掛ける」
- 「夏季の長期預かり保育中に水族館や地域の公園に出掛ける」

(15) 預かり保育に関して工夫した実践や特色ある取り組みについて

問2-13 預かり保育に関して工夫した実践や特色ある取り組みがあればお書きください。

自由記述について分類・分析したところ、工夫した実践や特色ある取り組みについて、7つの視点が得られた。それぞれの視点について、主な記述内容は以下の通りである。

【1. 保育内容・環境の構成の工夫(生活や遊びの質の向上)】

- 「落ち着いて遊べるよう、塗り絵・ブロック・パズルの時間をたっぷり確保している」
- 「ゆったり座れる場所を設け、家庭でも使っている遊具を用意している」
- 「静と動のメリハリをつけた活動内容を心掛けている」
- 「季節を感じられる活動を取り入れている」
- 「じっくり取り組める教材を用意している」
- 「ゆったりとした環境・遊びを保障できるよう工夫している」
- 「静と動のバランス、安心できる空間づくりを配慮している」
- 「個別のペースを尊重した関わりを意識している」
- 「多様な遊具・教材の工夫をしている」

【2. 異年齢交流・多様な人との関わりの創出】

- 「異年齢で一日中過ごし、刺激し合える環境を意図的につくっている」
- 「附属大学との連携、教育実習やボランティアを活用している」
- 「未就園児との関わりや地域の中学生による読み聞かせなどの交流を行っている」
- 「縦割り家族グループ活動など、異年齢交流を重視している」
- 「大学や中高生と連携し、ボランティアとして交流している」

【3. 季節や地域資源を生かした体験活動の工夫】

- 「夏休みは小学校のプールを借りて遊ぶ」
- 「芝生の園庭で水遊びを行う」「植物や昆虫との触れ合いができるようにする」
- 「おやつバイキングを行う」「夏祭りや発表会に取り組む」
- 「染め物や糸紬、海外とのオンライン交流などを工夫している」
- 「プール・水遊び・園外活動・自然体験・季節の行事・表現活動・夏祭り・製作・クッキングなどを実施する」

【4. 教職員の体制・連携の工夫】

- 「複数の教員がシフト制で勤務している」
- 「ローテーションで特別支援に対応している」
- 「ICレコーダーで情報共有する」「無線で連絡を取り合う」
- 「担任と預かり保育担当者が協力して保護者対応を行う」
- 「担任と預かり保育担当者の連携、伝達・情報共有などの工夫をしている」

【5. 保護者・家庭とのつながりの工夫】

- 「担任が会えない保護者への連絡を、預かり保育担当者が代理で伝える」
- 「長期休業中も毎日実施し、保護者のニーズに応える」
- 「家庭の遊びや生活習慣を取り入れる」
- 「家庭との一貫性を重視した保育を行うよう配慮している」
- 「保護者ニーズへの柔軟な対応を心掛けている」

【6. 子供の自発性・主体性を育てる取組】

- 「自分でしたい遊びを、満足するまでできる時間を保障している」
- 「個人のしたい遊びを実現できるようにしている」
- 「預かり保育の子どもたちが企画する夏祭り・発表会を行う」
- 「糸紬・染め物・オンライン国際交流などの探究的活動を工夫する」
- 「自分で選ぶ・決める・発表するなどの援助を行う」
- 「長時間保育の中で個別のペースを尊重する」
- 「“やってみたい”を広げる探究的な実践を工夫する」

【7. 安全・運営面での工夫(長時間保育・避難・給食など)】

- 「預かり時間中の避難訓練を実施する」
- 「給食・おやつの提供など、長時間保育に対応する」
- 「7:30～18:30の長時間保育を実施する」

(16) 預かり保育実施による教育的観点からの成果について

問2-14 預かり保育を実施して、教育的観点から成果がありましたか？
その内容をお書きください。

自由記述について内容を分類・分析したところ、預かり保育実施による教育的成果について、7つの視点が得られた。それぞれの視点について、具体的な記述内容をまとめたものを記載する。

【1. 異年齢交流により、社会性や思いやりの気持ちが育まれた】

- 「縦のつながりが深まり、思いやりが育った」
- 「異年齢での活動の中で、頼り頼られる関係ができた」
- 「憧れの気持ちや思いやりが育ち、人間関係が豊かになった」
- 「助け合い・教え合い・優しさ・リーダーシップ・自己肯定感などが育まれた」

【2. ゆったりした時間・少人数の中で自分らしさを発揮し、主体性が育った】

- 「自分の好きな遊びにじっくり取り組み、集中力・挑戦意欲・探究心・主体性などが育まれた」
- 「少人数の中で、自分らしさを発揮するようになった」
- 「普段は控えめな子がリーダーシップを発揮するようになった」
- 「クラスでは見えなかったその子のよさ・新しい一面が見られた」

【3. 教育課程との遊びや生活の連続性・保育者間の連携による教育効果が深まった】

- 「教育時間内の活動を引き継ぐことで、遊びが深まった」
- 「担任と預かり保育担当者が情報を伝え合うことで、落ち着いて園生活を過ごすことができた」
- 「子供を多面的に理解することができた」
- 「担任以外の人との関わりの中で、信頼感が育まれた」
- 「観察・情報の共有により、一貫した支援を行うことができた」

【4. 情緒の安定・生活リズム・自立心が育まれた】

- 「生活リズムが整いやすい、自分の体調に気付くなどの姿が見られた」
- 「安心して園生活を楽しむ姿が見られるようになった」
- 「自立した生活に必要な力が育った」
- 「挨拶・手洗いなどの生活習慣の自立、生活リズムが維持されるなどの成果があった」
- 「安定、安心して過ごせるようになった」
- 「見通しをもった行動がとれるようになった」

【5. 子供の多様性への理解と包容力が育った】

- 「外国人幼児等や特別な支援を要する幼児の言葉の獲得につながった」
- 「異年齢・多様な友達を受け入れ、関わる力が育った」
- 「外国人幼児等や特別な支援を要する幼児の社会的適応力や言語発達が促された」
- 「他者理解や多文化共生への基礎が育まれた」

【6. 保護者支援・家庭との協働による教育の広がり】

- 「保護者の心身のリフレッシュにつながっている」
- 「預かり保育担当者と担任で家庭情報を共有し、同じ方向性で支援できた」
- 「園と保護者の信頼関係が深まり、子どもの安心感につながった」
- 「保護者が安心して預けることができ、就労支援につながった」

【7. 課題・懸念点】

- 「登園を渋る、朝起きられない子が増えている」
- 「保護者同士の関係性が薄まり、子育てのネットワークが弱まった」
- 「人的不足…学級担任が兼務している」
- 「正規職員配置により、質の充実を図る必要がある」
- 「職員体制・働き方の課題がある」
- 「預かり時間の長時間化による心身の負担が見られる(幼児の疲れ・登園渋り・遅刻増加)」

園対象アンケートから読みとれる預かり保育の課題と 望ましい預かり保育の方向性についての考察

園対象アンケートをもとに、「預かり保育の課題」「課題から見えてきた預かり保育の望ましい方向性」の2つの観点から整理する。

1. 預かり保育の課題

(1) 制度的・構造的課題

① 担当職員の安定的雇用の難しさ

アンケートの結果から、預かり保育は非正規職員を中心として担われている園が多く、園の預かり保育の主要な担い手となっている実態が見られた。一方で、学級担任の兼務や外部人材の活用など、園の実情に応じた多様な体制も見られる。しかし、預かり保育担当者が日によって交替する場合や人員が限られている場合には、子供の姿の継続的な理解や援助の積み重ねが難しくなることもあり、預かり保育を教育活動として継続的に発展させていく上での課題となっている。

② 教職員間の情報共有の困難さ

アンケート結果では、学級担任と預かり保育担当者との情報共有は口頭で行われる場合が多く、記録やICT、会議等を組み合わせている園も見られた。しかし、その方法や頻度には園による違いが見られる。

自由記述では、情報共有が十分に行われている園では、教育時間の遊びが預かり保育へとつながったり、預かり保育の中で生まれた興味や関心が翌日の保育に生かされたりするなどの事例の記述もあった。一方で、情報共有の仕組みが十分でない場合には、教育時間とのつながりがもちにくいという課題も挙げられている。

③ 保護者・地域との関係性の変化

「長時間の利用者が増加するに伴って、保護者同士の交流や地域とのつながりが弱まりやすい」という記述も見られた。一方で、預かり保育の中で地域行事への参加や地域資源を生かした活動を行っている園も一定数見られる。子供が地域の中で様々な体験をしたり、多様な人との関わりをもったりなど、地域交流には園ごとの工夫が見られる。

預かり保育の長時間化や利用者の増加の中で、家庭支援や地域とのつながりをどのように維持・発展させていくかが課題となっている。

(2) 教育的課題

① 教育課程を踏まえた計画の立案

「教育時間との連携が弱い場合、預かり保育が『時間延長』として位置付けられやすく、教育的な育ちが見えにくくなる」という課題が挙げられている。一方、教育課程が共有され、計画につなげたり情報共有の工夫が行われたりしている園では、「遊びの循環や体験の広がりが見られている」旨の記述があった。預かり保育が園の教育全体の質を高める場となっていくためには、教育課程の内容を共有し、遊びや生活のつながりや子供の育ちを意識した実践が重要である。

② 子供の疲労・生活リズムへの配慮

自由記述の分析からは、預かり保育では子供の健康や生活リズムへの配慮が重視されていることが明らかとなった。具体的には、活動と休息のバランスを考えた時間の構成、

静かな遊びの場の確保、個別の休息への配慮など、子供の心身の安定を支える工夫が多く見られた。預かり保育の長時間化が進む中で、子供の心身の状況や一日の生活の流れに即した保育の質を確保していくことが重要な課題となっている。

2. 望ましい預かり保育の方向性

(1) 預かり保育の必要性

① 家庭・地域の変化に対応する社会的必要性

共働き世帯の増加が一層進む中で、園が子育ての支援の役割を担うことの重要性はますます高まっている。アンケートの自由記述からも、「就労していても幼稚園教育を選択できる」「保護者が安心して子育てできる」など、預かり保育が家庭を支える役割を果たしていることが示されている。

② 子供の発達を保障する観点

預かり保育では、異年齢の子供同士が関わる機会が自然に生まれやすく、年長児が年少児を助けたり、憧れや思いやりが育まれたりする場面が多く見られる。家庭や地域での体験が少なくなりつつある現代において、園でのこうした体験は、子供の社会性や協同性を育む貴重な機会となっている。

③ 幼児教育の継続的支援

長期休業期間中も遊びや生活を継続することにより、子供の規則正しい生活リズムや心身の安定に寄与することができる。アンケート結果からも、健康への配慮や活動と休息のメリハリを意識した遊びや生活の工夫が多く、園で行われており、預かり保育は子供の生活を継続的に支える役割を担うことができる。

(2) 望ましい預かり保育とは—教育時間とのつながりと独自性を生かして—

① 教育課程に基づいた教育時間との学びの連続性

預かり保育を単に「預かる」ということではなく、子供の学びや育ちを教育時間とつなぐ保育として構成することが重要である。預かり保育ならではのゆったりとした生活の流れの中で、教育課程が目指す方向性を踏まえながら、教育時間と預かり保育の経験をつなげていくことで、子供の学びや育ちをより豊かにすることができる。

② 異年齢保育ならではの豊かな人間関係の学び

預かり保育は異年齢の交流が自然に生まれやすい環境であり、年長児のリーダーシップや思いやり、年少児の憧れ、助け合いなど、多様な関係性や心情の育ちが期待できる。こうした交流が生まれる意図的な環境づくりや援助の工夫により、家庭では体験しにくくなった豊かな人間関係の学びを支えることができる。

③ 家庭的で安心できる環境

預かり保育では、子供が安心して過ごせる家庭的な雰囲気づくりと信頼関係を基盤とすることが重要である。生活リズムの安定、休息の確保、じっくり取り組める遊具、温かみがあり落ち着いて過ごせる空間、一人一人への丁寧な関わりなど、長時間の園生活を居心地よく過ごし、心身の負担を軽減する環境づくりの工夫が求められる。

④ チーム保育と専門性の共有

預かり保育の質を高めるためには、一人一人の子供を園全体で支える協働的な体制をつくる必要がある。情報共有の工夫、研修などにより、園の教育・保育の方向性を保育者が共有することによって、「多面的な子供理解」と「状況に応じた柔軟な援助」が可能となり、園全体の保育の質の向上につながっていく。

預かり保育担当者 アンケート

- I 調査概要
- II 調査結果
- III 預かり保育担当者アンケート
のまとめ

I. 調査概要

預かり保育を実際に担当している保育者を対象にWEBアンケート調査を実施し、預かり保育担当者の立場から、実態や課題を把握するとともに、今後の預かり保育の質的向上に資する本研究の基礎資料とする。

(1) 回収率

配布数 預かり保育担当者 60名

回答者数 39名

回収率 65%

(2) 回答者の属性

<雇用形態>

雇用形態	度数	(%)
正規	14	36
非正規	24	62
その他	1	3
合計	39	100

<預かり保育経験年数>

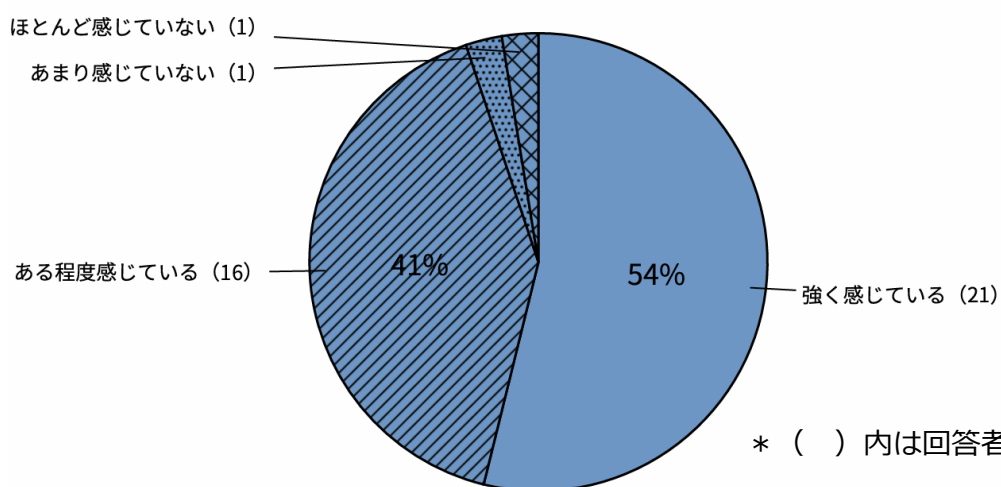
経験年数	度数	(%)
1年未満	7	18
1～3年	3	8
4～6年	11	28
7年以上	18	46
合計	39	100

II. 調査結果

(1) 預かり保育担当としてのやりがいについて

問6. 預かり保育の担当者としてやりがいを感じていますか。

<回答者数 39名>



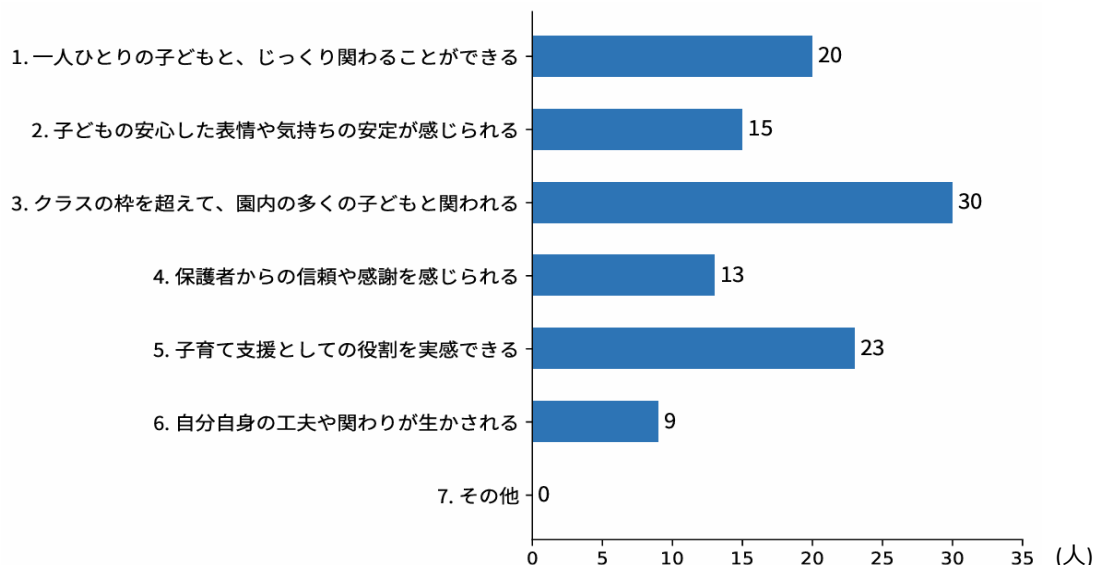
<考察>

「強く感じている」「ある程度感じている」の回答が95%を占め、正規・非正規にかかわらず、預かり保育担当者は、“やりがいのある仕事”と感じていることがうかがわれる

(2) 預かり保育のやりがいを感じる点

問7. 「とても感じている」「ある程度感じている」と答えた方に質問します。預かり保育のやりがいを、主にどのような点に感じていますか。（複数選択可）

回答者数 37名



<考察>

「クラスの枠を超えて、園内の多くの子どもと関われる」が最も多く、回答者の77%が選択している。次いで「子育て支援の役割を実感できる」「一人一人の子どもとじっくり関わることができる」など、子供との関わりや子育て支援の必要性にやりがいを見出していることが読み取れる。

(3) やりがいを感じたエピソードについて

問8 預かり保育を担当していて、やりがいを感じた場面やエピソードについて教えてください。（自由記述）

自由記述の内容を分析したところ、やりがいを感じた場面について、主に次の4つの観点に分類することができた。

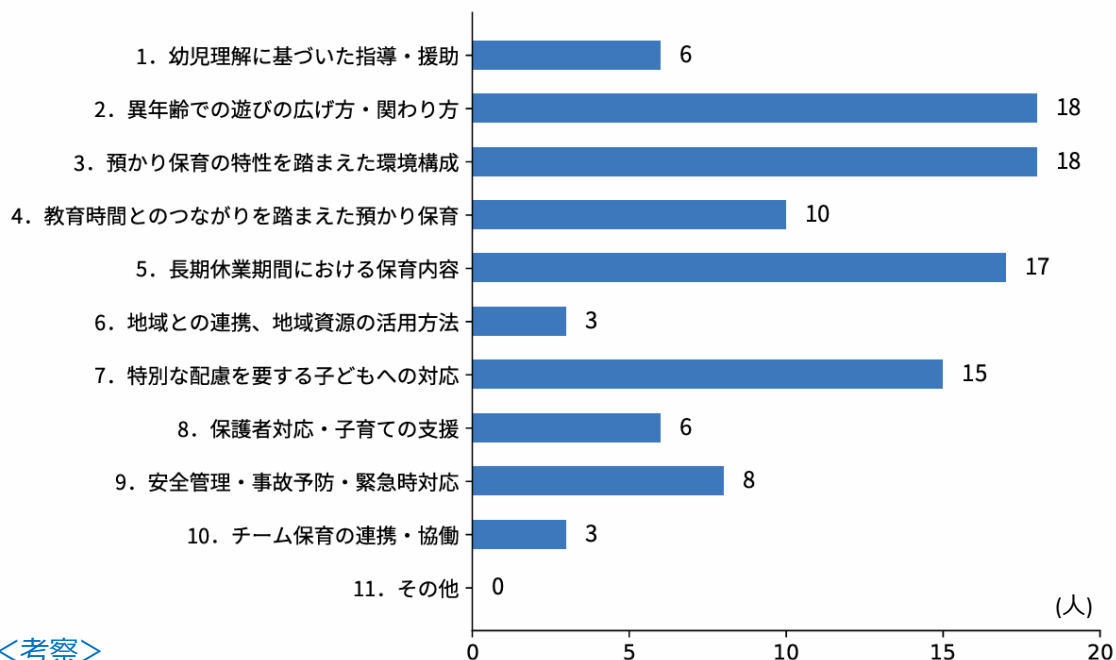
- ① 子供の安心・安定の実感
- ② 異年齢の関わり・少人数ならではの関係の広がりや深まり
- ③ 保護者からの信頼、子育ての支援としての有用感
- ④ 自分の工夫が子供の姿に反映される手応え

預かり保育担当者は、「子供の安心・安定」や「異年齢の関わりや子供同士の関係の深まり」のように子供の成長等を実感したり、「保護者からの信頼や子育ての支援」や「自分の工夫が子どもの姿に反映される手応え」のように子供や保護者との関わりの成果が自らの実践にあると実感したりして、やりがいを感じていることがうかがわれる。

(4) 預かり保育担当者としてさらに学びたいこと

問9 預かり保育の担当者として、さらに学びたいことは何ですか。（3つまで）

回答者数 39名



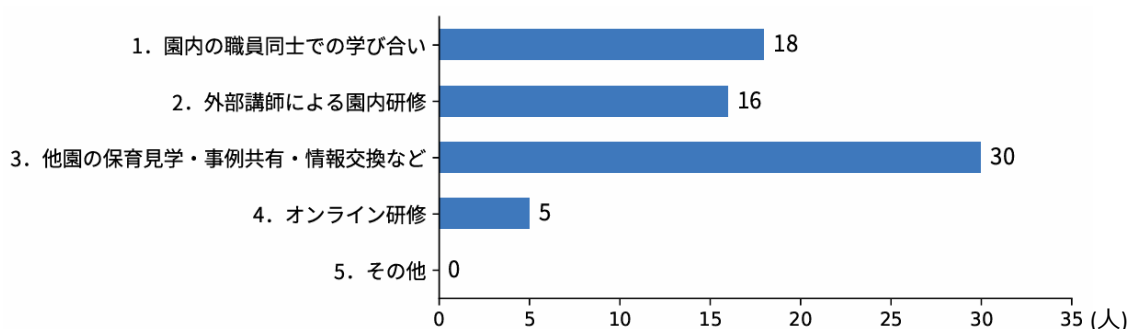
<考察>

「異年齢保育の広げ方・関わり方」「預かり保育の特性を踏まえた環境構成」「長期休業における保育内容」がほぼ同数で、預かり保育の在り方について学びたいと考えていることが分かる。「地域との連携・資源の活用」「チーム保育の連携・協働」は優先順位としては低い。

(5) 研修や学びの機会として望ましい方法

問10. 研修や学びの機会として、望ましい方法を教えてください。（複数選択可）

回答者数 39名



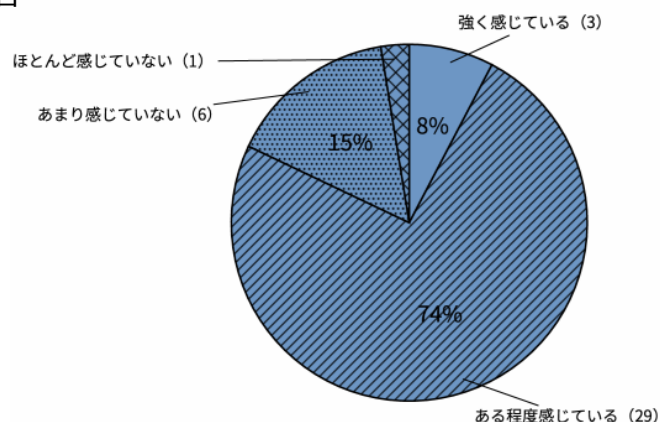
<考察>

最も多い回答は、「他園の保育見学・事例共有・情報交換」で77%が選択している。次いで、「園内の職員同士での学び合い」「外部講師による園内研修」と続く。直接、他園の保育を見たり情報交換をしたりして、具体的に学びたい気持ちや日々の保育について語り合いたい気持ちがうかがえる。

(6) 預かり保育における課題・難しさ

問11. 預かり保育を担当する中で、課題や難しさを感じることはありますか。

回答者数 39名

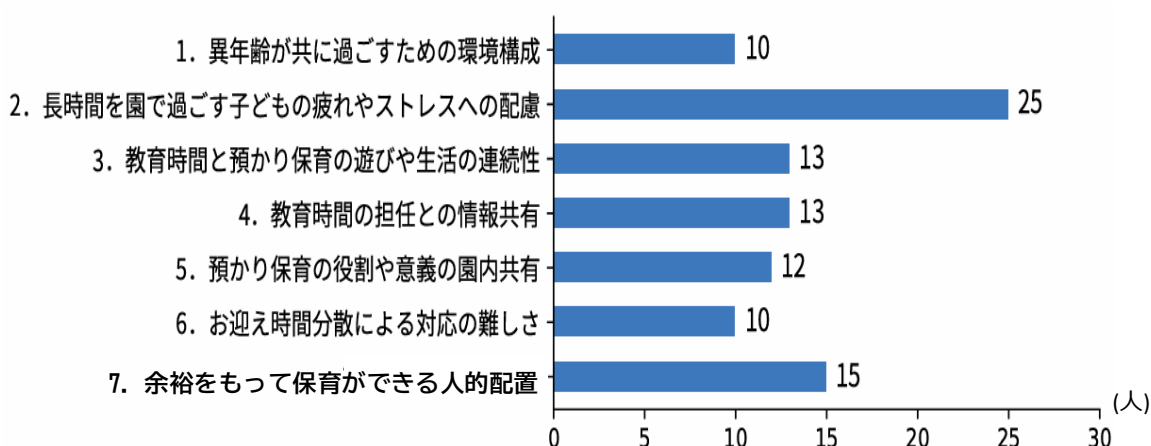


<考察>

預かり保育を担当する中で、「課題や難しさを感じている（「強く感じている」「ある程度感じる」）」という回答は31名（約82%）であり、多くの預かり保育担当者が何らかの課題を感じながら保育にあたっていることが分かる。預かり保育は担当者にとってやりがいの高い仕事である一方、課題や難しさを抱えている実態がうかがえる。

問12. 問11で「強く感じる」「ある程度感じている」と答えた方に質問します。具体的にどのようなことに課題を感じていますか。（複数選択可）

回答者数 39名



<考察>

最も選択が多かったのは、「長時間を園で過ごす子供の疲れやストレスへの対応」で、39名のうち25名（64%）が課題を感じていた。子どもの心身の健康への負担を心配し、ストレスへの配慮をしていると考えられる。

(7) 預かり保育が園の教育の一環としてより充実していくために必要なこと

問13. 預かり保育が、園の教育の一環としてより充実していくために必要だと思うことについてお書きください

自由記述を分類・分析したところ、預かり保育の充実のために必要と感じていることは、以下の6つのカテゴリーに整理された。

① 職員間の連携・情報共有の重要性

最も多く挙げられたのは、「担任と預かり保育担当者との連携や情報共有の必要性」であった。「担任との連携」「申し送り」「共通理解」「園内での情報交換」などの記述が多く見られ、教育時間と預かり保育間で、担当が変わることより職員間の連携や情報共有の体制が十分ではない現状があることがうかがわれる。教育時間と預かり保育間での子供の姿の共有をすることで、子供の姿がつながることが預かり保育の質向上のために重要であることが示唆されている。

② 人的配置・運営体制の課題

長時間を園で過ごす預かり保育においては、「子どもの安心・安全」を保障することや「家庭的な雰囲気づくり」が重要であると考えられる。しかし、「利用人数が多く、個々の気持ちに寄り添うことが難しい」「目が行き届かず、安全な体制とは言い難い」「疲れやストレスが生じる時間であり支援の必要な子も複数いる中、厳しい状況にある」など、安全確保や家庭的なゆったりとした関わりのための人員が十分ではないと感じている記述が多い。そのため個々に応じた安全・安心な預かり保育を行うために、人的配置は重要な課題となっていると考えられる。

③ 教育課程の理解、教育時間とのつながり

「教育課程の理解」「教育時間とのつながり」「ねらいの共有」といった記述も一定数見られ、預かり保育を単なる在園する時間の延長と捉えるのではなく、教育の場として充実させたいという意識がうかがわれる。教育課程とのつながりの必要性を園全体で共有することの重要性が示唆されている。

④ 親と子をつなぐ子育て支援の工夫

長時間を園で過ごすことが増え、「親子で過ごす時間が減少する」ことや「子供の疲労、ストレス」を懸念する意見も見られる。一方で、「園の様子を伝えながら、子供の育ちを共有」したり、「話題提供をしている」などの記述もあり、親と子をつなぐ支援の工夫は、預かり保育の大切な役割であることが示されている。

⑤ 家庭的雰囲気・安心できる環境の確保

「安心して過ごせる環境」「落ち着ける場所」「ゆったりとした時間の流れ」など、家庭的雰囲気の重要性を課題とする回答が多く見られた。預かり保育は教育活動の場であると同時に、子供が安心して過ごせる生活の場、居場所であり、環境を整備することが大切であると捉え、具体的な工夫について学びたいとする記述もあった。

⑥ 預かり保育独自の教育の広がりの可能性

少数ではあるが、「遊び込みの発展」「預かり保育ならではのねらい」「ゆったりした時間の流れ」「教育時間とは異なるアプローチ」など、預かり保育の独自性について考えている記述も見られた。教育時間とのつながりを大切にすると同時に、預かり保育独自の教育の広がりにもつなげたいという意識がうかがわれる。

Ⅲ. 預かり保育担当者アンケートのまとめ

本調査からは、預かり保育における日々の工夫、職務の喜び、悩みや課題など、預かり保育担当者としての思いを知ることができた。子育ての支援としての役割や子供の成長にやりがいを感じるとともに、教育内容への迷い、人的配置や情報共有、園全体での預かり保育の意義や連携体制など、教育的側面や運営面、制度上の課題を感じていることがうかがわれる。

以上のことから、預かり保育の質向上に向けては、以下の7つの視点をもって取り組む必要があると考えられる。

- ① 預かり保育の教育的意義の明確化
- ② 教育課程に基づいた教育時間と預かり保育のつながりによる園全体の教育の質の向上
- ③ 人的配置の安定化
- ④ 園内の情報共有の連携体制づくり
- ⑤ 研修の在り方と研修体制の整備
- ⑥ 子育ての支援としての預かり保育と家庭の役割の認識の再整理
- ⑦ 預かり保育における地域行事・地域資源の活用

本アンケートから得られた貴重な知見を、今後の預かり保育の質向上に向けたプログラム検討・作成に反映させていく所存である。

今後の研究の方向性

今後の研究の方向性

アンケートの集計結果、分析・考察から、預かり保育の多様な意義と課題が明確になってきた。これらを踏まえ以下の5点を基盤として今後の研究を推進していく。

1 預かり保育は単なる「時間延長」ではなく、幼児にとって多様な学びの場となることを目指す

教育時間における遊びや生活とのつながりを意識したり、預かり保育ならではの体験を重ねつつ、子供が安心して過ごし自ら生活を組み立てていく姿を支えたりし、主体的に生活を創る場であることに加え、多様な学びの場として預かり保育を構想していくことが重要である。預かり保育は、生活を創る場、異年齢交流が生まれる場、家庭と園をつなぐ場、地域とつながる場として、様々な教育的意義を有することが本調査からも確認された。今後、多様な学びの場としての預かり保育を推進するためリーフレットを検討・作成する。

2 園内の情報共有と保育者間の連携体制が、教育・保育の一貫性を生み、園全体の質の向上の鍵となる

預かり保育担当者の多くが非正規雇用であり、学級担任と預かり保育担当者の情報共有の時間の確保や、日により預かり保育担当者が変わる状況の中で一人一人の子供理解の難しさも確認された。さらに、研修の機会も十分ではない実態から、雇用形態に関わらず、専門性を磨く研修体制を構築していく必要がある。また、教育時間と預かり保育を子供が育つ場として一体的に位置付け、全職員で共通理解していくことが質向上の鍵となる。さらに、担任と預かり保育担当者が、子供の実態や支援方針を継続的に共有していくことにより、育ちの連続性を支え、園全体の教育の質の向上につながっていく。ICTの適切な活用、定期的な協議の場の確保など、連携を組織的に支える体制づくりが求められる。

3 子供の直接体験の場を保障し、子育ての支援の場としての充実を図っていく

時代や社会の急激な変化の中で、共働き家庭が増加し家庭や地域で豊かな経験ができにくく子育ての困難さを感じる保護者も増えている。本調査を通し、子育ての支援の重要性を再認識することとなった。預かり保育は、保護者の子育てに伴う不安や負担の軽減などを通して、園と家庭の信頼関係を基盤に、子供の安定を支える役割を果たしていかなければならない。子供がゆったりとした時間の中でじっくり遊べる環境を工夫するとともに、保護者と子供の育ちを共有し、細やかに子供の姿を伝えながら、「親と子をつなぐ子育ての支援」を考えていくことが大切である。

4 保護者や地域が「子供を支える共同体」となる幼稚園文化の再構築を図る

預かり保育が長時間化していく中で、幼稚園教育が大切にしてきた保護者同士の交流の機会が減少していくことへの懸念も示唆された。また、地域のつながりの希薄化もあり、子供や子育て家庭への寛容性が薄れていることも現代社会の課題である。地域行事や地域資源も活用しながら多様な人との関わりを創出し、家庭・地域・園が「子供を支える共同体」となる幼稚園文化を再構築していくことが課題である。

5 保育内容の充実を求めるためには、様々な担当者の処遇を改善し、安定的な雇用形態や条件を整備していくことが必要である。

家庭的で安心できる環境づくりや関わりの重要性は広く認識され、信頼関係を基に、情緒の安定を意識した実践が模索されている。また、特別な配慮を要する子供にとっては、自分なりのペースで過ごせる時間の流れや空間の保障は大きな意味をもつ。一方で、人的配置や預かり保育専用スペースの確保については園によって格差があり、継続的で安定した関わりや家庭的な環境づくりが困難な状況にある園も少なくない。家庭的環境づくりを支える人的、物的な制度的基盤の整備が今後の重要な課題の1つであると考える。

IV. 資料

園対象アンケート設問

預かり保育担当者アンケート設問

園対象アンケート設問

幼児教育の充実を目指す預かり保育のプログラム開発・実践

この調査は、貴園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動（以下、預かり保育）の実態や成果、課題などについてお聞きするものです。回答結果は、文部科学省委託研究「子育ての支援や家庭等との連携強化に関する調査研究」以外の目的には使用いたしません。回答は全て、フォームスを介して行い、コンピュータに入力しデータとして処理されます。回答された園名等が公表されることは一切ありません。また回答がない場合でも不利益を被ることはありません。

ご協力どうぞよろしくお願いします。

1 貴園について、あてはまる記号にチェックしてください。

- a 国立
- b 公立
- c 私立（私学助成園）
- d 私立（新制度園）

- 2-1 貴園の満3歳児の人数を入力してください。
（該当がない場合は「0」と入力してください。）
- 2-2 貴園の3歳児の人数を入力してください。
（該当がない場合は「0」と入力してください。）
- 2-3 貴園の4歳児の人数を入力してください。
（該当がない場合は「0」と入力してください。）
- 2-4 貴園の5歳児の人数を入力してください。
（該当がない場合は「0」と入力してください。）

問1 令和7年度の預かり保育の実施状況について伺います。

問1-1. 預かり保育は誰が担当していますか。（複数回答可）

- a 預かり保育専任担当者（正規）
- b 預かり保育選任担当者（非正規）
- c 学級担任が兼務
- d 外部委託者
- e ボランティア
- f その他

問1-2. 特別な配慮が必要なお子さんが利用する場合の加配はありますか。
（該当する記号にチェックをお願いします）

- a ある（教育課程時間内から継続のスタッフ）
- b ある（預かり保育時間内専任のスタッフ）
- c ない（学級担任等がフォローする）
- d ない（預かり保育担当者が指導する）

問1－3.学級担任と預かり保育担当職員間の情報共有・情報交換をどのように行っていますか。(複数回答可)

- a 口頭
- b 記録の共有
- c ICTの活用
- d 会議
- e その他(具体的にご記入ください)

問1－4.学級担任と保護者との情報交換をどのように行っていますか。(複数回答可)

- a 口頭
- b 連絡帳
- c 連絡アプリなどICT活用
- d 保護者会
- e その他()

問2 貴園の預かり保育の計画について伺います。

問2－5. 預かり保育の計画を作成していますか。(複数回答可)

- a 年間計画
- b 月間計画
- c 週案
- d 日案
- e 作成していない

問2－6. 教育課程とのつながりを意識した具体的な内容や配慮点などがあればお書きください。
(自由記述)

問2－7. 地域行事に参加したり、地域資源を生かしたりした内容がありますか。
(該当する記号に チェックをお願いします。)

- a ある
- b ない

問2－7－2 aと答えた方:工夫した具体的な活動があればお書きください。
(自由記述)

問2－8. 子どもの心身の負担に対して、どのような配慮をしていますか。
(特に大切にしているものを3つ選んでください。)

- a 動的活動と静的活動のバランス
- b 個別対応への配慮
- c 家庭的な雰囲気づくり
- d 植物や飼育物などの配慮
- e 遊具やソファ・クッションなど物品の配慮
- f 落ち着いて過ごせるスペースの確保(畳やデンスペースなど)
- g 発散できるスペースの確保
- h その他()

問2－9. 午睡はいつまで行っていますか。
(最も近いものに該当する記号にチェックをお願いします。)

- a 実施していない
- b 3歳1学期末まで
- c 3歳2学期末まで
- d 3歳3学期末まで
- e 4歳1学期末まで
- f 4歳2学期末まで
- g 4歳3学期末まで
- h 5歳1学期末まで
- i 5歳2学期末まで
- j 5歳3学期末まで

問2－10. 安全管理で特に、配慮していることはありますか。
(該当する記号にチェックをお願いします。複数回答可。)

- a 防犯・不審者対応
- b アレルギー
- c 熱中症対策
- d 防災
- e その他()

問2－11. 預かり保育の専任担当者を対象にした研修の機会がありますか。
(該当する記号にチェックをお願いします。)

- a ある
- b ない

問2－11－2. aと答えた方:預かり保育の専任担当者を対象とした研修はどのような内容ですか。(複数回答可)

- a 危機管理(不審者対応、アレルギー、熱中症、防災訓練など)
- b 保護者の子育て支援
- c 保育内容
- d 特別支援教育
- e 幼児理解
- f その他()

問2－12. 長期休業期間の生活の流れについて特に配慮していることはありますか。(複数回答可)

- a 健康
- b 活動のメリハリ
- c 園外活動
- d 午睡
- e おやつ
- f 季節ならではの活動
- g その他()

問2－13. 預かり保育に関して工夫した実践や特色ある取り組みがあればお書きください。(自由記述)

問2－14. 預かり保育を実施して、教育的観点から成果がありましたか?その内容をお書きください。(自由記述)

預かり保育担当者アンケート設問

幼児教育の充実を目指すいわゆる「預かり保育」の実践に 関する意識・実態調査(預かり保育担当者用)

【はじめに】

本アンケート調査は、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動(以下、預かり保育)を実際に担当されている保育者の方々の意見を聞かせていただき、今後の預かり保育の質的向上に資する基礎資料とすることを目的としています。回答は全て、フォームスを介して行い、データとして処理され、個人が特定されることは一切ありません。ご協力は任意であり、回答の有無によって不利益が生じることはありません。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(教育課程に係る教育時間・・・教育時間 と表記しています)

【ご自身と勤務状況について】

問1. 幼稚園教諭・保育士としての総経験年数(1つ選択)

- ・ 1～3 年
- ・ 4～10年
- ・ 11～20年
- ・ 21年以上

問2. 預かり保育の担当経験年数(1つ選択)

- ・ 1年未満
- ・ 1～3年
- ・ 4～6年
- ・ 7年以上

問3. 現在の雇用形態(1つ選択)

- ・ 正規職員
- ・ 非正規職員(パート・非常勤・会計年度任用職員等)
- ・ その他()

問4. 担当形態(1つ選択)

- ・ 預かり保育専任
- ・ 担任等との兼務
- ・ その他()

問5. ご勤務先の園種別 (1つ選択)

- ・ 国立
- ・ 公立
- ・ 私立(私学助成園)
- ・ 私立(新制度園)

【預かり保育についての設問】

問6. 預かり保育の担当者としてやりがいを感じていますか(1つ選択)

- ・ とても感じている
- ・ ある程度感じている
- ・ あまり感じていない
- ・ ほとんど感じていない

問7. 「とても感じている」「ある程度感じている」と答えた方に質問します。預かり保育のやりがいを、主にどのような点に感じていますか(複数回答可)

- ・ 教育時間よりも、一人ひとりの子どもと、じっくり関われる
- ・ 子どもの安心した表情や気持ちの安定が感じられる
- ・ クラスの枠を超えて、園内の多くの子どもと関われる
- ・ 保護者からの信頼や感謝を感じられる
- ・ 子育て支援としての役割を実感できる
- ・ 自分自身の工夫や関わりが活かされる
- ・ その他()

問8. 預かり保育を担当していて、やりがいを感じた場面やエピソードについて教えてください

(例: 環境の工夫、遊びの様子、子どもの変化、保護者の言葉など)

問9. 預かり保育の担当者として、さらに学びたいことは何ですか(3つまで選択可)

- ・ 幼児理解に基づいた指導・援助
- ・ 異年齢での遊びの広げ方・関わり方
- ・ 預かり保育の特性を踏まえた環境構成
- ・ 教育時間とのつながりを踏まえた預かり保育
- ・ 長期休業期間における保育内容
- ・ 地域との連携、地域資源の活用方法
- ・ 特別な配慮を要する子どもへの対応
- ・ 保護者対応・子育ての支援
- ・ 安全管理・事故予防・緊急時対応
- ・ チーム保育の連携・協働
- ・ その他()

問10. 研修や学びの機会として、望ましい方法を教えてください（複数選択可）

- ・ 園内の職員同士での学び合い
- ・ 外部講師による園内研修
- ・ 他園の保育見学・事例共有・情報交換など
- ・ オンライン研修
- ・ その他（ ）

問11. 預かり保育を担当する中で、課題や難しさを感じることはありますか
(1つ選択)

- ・ 強く感じているある程度感じている
- ・ あまり感じていない
- ・ ほとんど感じていない

問12. 設問11で「強く感じている」「ある程度感じている」と答えた方に質問します。具体的に、どのようなことに課題を感じていますか（複数選択可）

- ・ 異年齢が共に過ごすための環境構成
- ・ 長時間を園で過ごす子どもの疲れやストレスへの配慮
- ・ 教育時間と預かり保育の遊びや生活の連続性
- ・ 教育時間の担任との情報共有
- ・ 預かり保育の役割や意義を園内で共有すること
- ・ お迎え時間が分散し、落ち着いて話しにくい
- ・ 余裕をもって保育ができる人的配置
- ・ その他（ ）

13. 預かり保育が、園の教育の一環としてより充実していくために必要だと思うことについて、お書きください（自由記述）

ご協力ありがとうございました。